令和6年度

椿小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇児童の実態に応じた複式授業の実践
〇自主的に，安心して取り組むことのできる家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
永井　ももこ	校長：清水　浩三， 教頭(3・4年担任)：立田　香江子， 5・6年担任：平岡　伸章，1・2年担任：瀧本　香織， 椿学級担任：永井　ももこ，市学校教育支援員：林正雄

校長

清水　浩三

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員間での研修，OJT等を行うことで，取組状況の把握を行う。

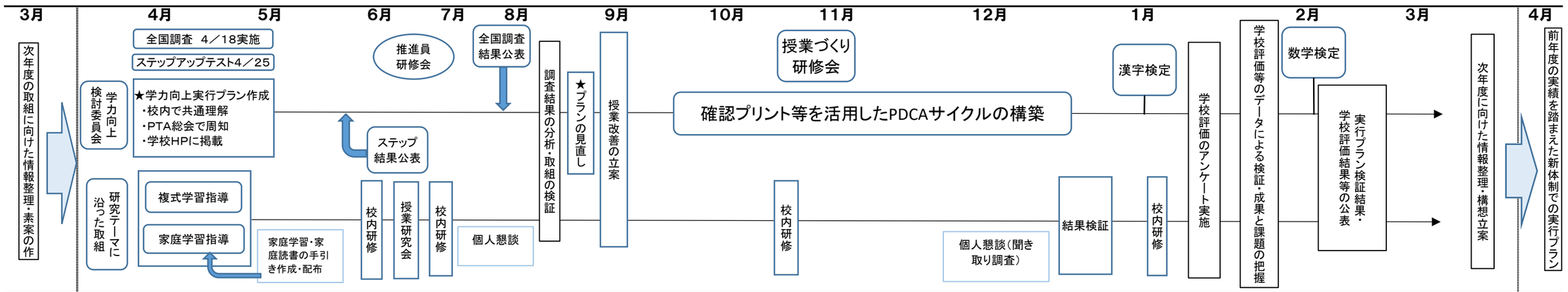
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇ドリル学習や家庭学習等に真面目に取り組むことができ，該当学年の漢字の読み・書き・計算等において約8割程度の定着が見られる。 〇昨年度末の児童のアンケートから，授業で学んだことを生活の中で活用しようとしているという内容に9割以上の児童が肯定的な回答をしている。 ●漢字の読み・書き・計算等において，個人差が大きい学年があり，長期にわたっての定着度が不足している児童もいる。 ●長文の読み取りや工夫して計算する問題に対しての理解に時間がかかる。	・漢字の読み書きや四則計算などの，基礎的・基本的な知識・技能を習得している。 ・習得した知識や技能を，他の学習や生活の場面でも応用して活用することができる。	・朝のスキルアップタイムや授業の始めの10分間を使って，漢字・計算等のドリル学習や，タブレット教材を活用した基礎的・基本的な反復学習を継続的に行う。 ・個人の課題に応じた授業展開を心がける。 ・漢字検定や数学検定に取り組むことで，児童に目標をもって学習に臨む態度を身につけさせるとともに，基礎学力の向上を図る。	・直前に終えた単元の復習だけでなく，少し前の既習内容も復習する機会を作り，定着を図る。 ・タブレットを活用して，個に応じた学習内容を選択、演習できるようにする。 ・生活場面と関連付けた学習活動や問題提示を行う。	・朝のスキルアップタイムや授業の中で，漢字や計算等のドリル学習を通して，基礎的事項の復習ができるような時間を設定できた。 ・適用問題が早くに終わったり，すき間時間ができたりしたときに，タブレットの学習アプリを使って自分で学びを進めさせることができた。（高学年） ・授業での知識を，実生活の中で思い出して活用できるような場面の設定や声かけができた。 ・都道府県名をすべて覚えることができた。漢検・数検同様、具体的な目標を設定することで意欲が増すことが分かった。	・文字を丁寧に書いたり，習った漢字を使って書いたりといった，基礎的なことを繰り返し指導することで，定着させる。 ・図書館サポーターと連携して，授業や行事に関する読み聞かせを実施したり，授業に関連する本を紹介してもらったりするなどして，知識や理解を深める。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇方法や手順が分かる学習には真面目に取り組むことができる。 ●読解力，表現力が乏しく，考えたことを自分の言葉で話したり，書いたりすることに課題があり，自ら進んで表現することに苦手意識がある児童が多い。	・みんなの意見を聞き，授業や行事等で積極的に自分の考えを話したり書いたりし，他者に伝えることができる。	・ペアやグループで取り組む学習を効果的に取り入れ，児童相互の学び合いの機会を持てるような授業展開に努める。 ・児童の発言や発表の内容に応じて「なぜ」「どうして」などのさらなる発問を行い，考えを深めさせる。 ・児童の考えを認め，まちがいを生かしてまちがっても良いと思える雰囲気づくりに努めることで，安心して学習することができる場をつくる。	・各授業や活動で，子どもたちが自分の考えもったり友だちの意見を聞いて考えを深めたりするような「試行錯誤する時間」を十分に確保する。 ・新聞などの資料やタブレットでの検索で得た情報を正しく読み取ったり，自分の考えをまとめたりする活動を，授業の中に取り入れる。 ・音読指導を続け，文章全体の内容を理解して読むことができるよう練習を重ねる。	・あいづちや間違いをフォローする声かけをするなど，児童の意見を肯定的に受け止める雰囲気を教師自身が率先してつくるよう心がけたことで，子どもたちから様々な意見を積極的に引き出すことができた。 ・児童の意見が途切れたときに，教師が待てずに答えを提示したり誘導したりして，思考を止めてしまうことがあった。 ・学校での読書活動が，絵本などに偏っていることで，思考力・読解力の向上につながっていないように感じる。	・児童の発言や発表の内容に応じて，「なぜ」「どうして」などの，さらに考えを深められる発問を行う。 ・児童の考える時間・試行錯誤する時間を十分に確保する。 ・「何分間で自分の考えを伝える」というような活動を取り入れ，自分の意見をまとめてわかりやすく表現する練習を続ける。 ・児童だけで活発な話し合いができるように，支援や取り組みを考える。 ・思考力や読解力の向上につながるような本選び・読書活動の指導を検討する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇落ち着いて学習に取り組むことができ，出された課題や家庭学習などには，真面目にきちんと取り組むことができている。 ●主体的な取り組みに対して個人差があり，自分で考えて自主的，計画的に学習を進められる児童は少ない。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の苦手なことや興味に応じて，自ら課題を設定し，各教科の学習や自主学習等で，学習の仕方を考えながら積極的に取り組むことができる。	・家庭学習の手引きを作成し，児童・保護者がどのように家庭学習に取り組めばよいのか具体的に分かるようにする。 ・「家庭学習チェックカード」を活用することで，保護者に家庭学習の様子を見てもらうことができるようにする。 ・毎月最終金曜を「家庭読書の日」とし，学校図書を持ち帰らせて，家庭での読書に励むことができるようにする。 ・毎月「家庭読書の日」以外の金曜を「自主学習の日」とし，自分に合った量や内容の学習に取り組むことができるようにする。 ・毎時間のめあてを明確にし，授業の中に児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れる。	・ICTを活用したり，問題となる場面設定を児童にとって身近なイメージしやすいものにしたりし，興味を持って学習に取り組めるよう授業を工夫する。 ・授業や読書，自主学習における良い取り組みや頑張りを，クラスや全校で紹介し合う場を作ったり，掲示したりするなどし，褒められたり認められたりする経験が学習意欲の向上につながるようにする。	・読書賞を作って表彰したり，図書館サポーターの先生と連携して読書活動を活性化する取り組みを行うことができた。 ・学校では，朝の読書活動や授業の余った時間で読書に積極的に取り組む様子が見られるが，家庭では自主的に読書に取り組むのが難しい様子が見られた。	・毎時間のめあてを明確にし，授業の中に児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れる授業を考える。 ・家庭読書の日も活用しながら，家庭で読書をするための取り組み例などを保護者にも紹介するなど，家庭でも読書に取り組めるように保護者へのはたらきかけも強化する。 ・家庭学習の充実を図るために，家庭での時間の過ごし方を指導するとともに，タブレットを活用した家庭学習についても指導していく。

令和6年度　学力向上ロードマップ